

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	生体内における細胞外マトリックス・リモデリングの役割と制御機構の解明	研究代表者名	野田 亮
-------	------------------------------------	--------	------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア () 高い
- イ (×) やや高い
- ウ () やや低い
- エ () 低い

意見：
研究代表者が見つけた興味深い分子で、その解析は重要と考えられる。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア () 予定以上に進展している
- イ (×) 概ね予定どおり進展している
- ウ () やや遅れている
- エ () 遅れている

意見：
ノックアウト・マウスの作製を除き順調に進んでいる。ただ、現象論的であり、より分子的、生化学的に緻密な解析が必要であろう。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア () 研究経費
- イ () 設 備
- ウ () 組 織
- エ () そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア () 期待以上の成果をあげている
- イ (×) 概ね期待された成果をあげている
- ウ () 期待された成果をあげつつある
- エ () 期待された成果はあがっていない

意見：
確実な成果は挙げているが、既に発見した興味ある事実の公表を一層促進することが期待される。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見 :

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見 :

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見 :

研究代表者が独自に発見した分子 (RECK) の解析は重要、かつ独創性の高いものである。この分子の発現を制御する化合物などの同定で確実な進捗が見られる。他方、コンディショナル・ノックアウト・マウスの作製が遅れている。また、いくつかの興味ある現象を見いだしているが、その生化学的、分子的な解析はまだ不十分である。さらに、これまで得ている研究成果の公表を一層促進することも必要である。